

モデル事業名	桜島まるごと体験村プロジェクト
活動団体名	特定非営利活動法人 桜島ミュージアム
ホームページ	http://www.sakurajima.gr.jp/
所属/ 担当者名	事務局 中道 彩
連絡先	099-245-0100 nkmcaya@sakurajima.gr.jp
活動地域	鹿児島市桜島

● **活動地域の概要**

- ・ 平成 16 年の市町村合併に伴い、西桜島（旧桜島町）と東桜島（旧鹿児島市）が合併し、桜島全体が鹿児島市となった。
- ・ 西桜島には 11 集落、東桜島には 7 集落ある。
- ・ 西桜島の人口構成の推移

	世帯数	総人口	0-19 歳	20-64 歳	64 歳以上	高齢化率
平成 17 年 3 月末	2,000	4,686	827	2,329	1,530	32.70%
平成 20 年 3 月末	1,950	4,390	739	2,130	1,521	34.60%

- ・ 東桜島の人口構成の推移

	世帯数	総人口	0-19 歳	20-64 歳	64 歳以上	高齢化率
平成 17 年 3 月末	916	1,714	208	778	728	42.50%
平成 20 年 3 月末	882	1,630	224	717	689	42.30%

- ・ 鹿児島市の人口構成の推移

	世帯数	総人口	0-19 歳	20-64 歳	64 歳以上	高齢化率
平成 17 年 3 月末	264,148	598,055	124,405	362,247	111,403	18.63%
平成 20 年 3 月末	272,866	601,682	120,055	360,916	120,711	20.06%

- ・ 桜島と鹿児島市とを結ぶ桜島フェリーは、昼間は 10 分おき、夜間は 1 時間おきに運航しており、24 時間営業である。バスは西桜島・東桜島共にフェリーターミナルから 1 時間に 1 本程度運行している。
- ・ 桜島ではかつては農業・漁業などの第一次産業や観光業が栄えていたが、最近では、ほとんどの住民が鹿児島市内へ通勤にでている。
- ・ 第一次産業従事者が高齢化し、後継者不足のため放棄地が年々増加している。
- ・ 鹿児島市の耕作放棄地は、平成 20 年現在約 600ha ある。



【耕作放棄地 樺畑】



【耕作放棄地 ビワ畑】



【位置図】



【位置図 対象地域 古里・有村地区（東桜島）】

● 活動地域の課題

本事業を実施する古里・有村地区の人口構成は以下の通りである。(古里・有村を合計した値)

	世帯数	総人口	0-19歳	20-64歳	64歳以上	高齢化率
平成17年3月末	124	205	7	80	118	57.6%
平成20年3月末	117	191	19	68	104	54.5%

- ・ 東桜島の中でも、古里・有村地区は高齢化率が50%を超えており、高齢者の一人暮らしも多い地域である。地区の人々の高齢化が進むと共に、耕作放棄地、空き家が年々増加している。地区の町内会の人々の中からこの状態を打開するために何か行動を起こしたいという意見が挙げられた。
- ・ そのため古里・有村地区では、このような耕作放棄地や空き家を有効利用するために活動目標を設定し、目標に向け実際に活動することが今後の課題である。

● 活動の内容

・平成21年度

1) 体験活動指導者養成講座・救急法講座

本事業で体験を受け入れるためのリスクマネジメントとして、体験活動指導者養成講座と救急法講座を開催した。この講習会の受講者は、本事業の受入れ予定者だけでなく、体験活動に興味・関心のある人などを広く募集した。

2) 桜島まるごと体験村プロジェクト

古里・有村地区で耕作放棄地の開墾、ビワの袋かけ、桜島小みかんの収穫などその季節にあった農業体験・畜産体験・釣り体験などの様々な体験を提供した。

体験の受け入れは、古里・有村地区の町内会の有志が集まった「改新会」を中心とした地域住民が行った。

体験は、月1回の計6回程度とし、一泊二日の宿泊体験を受け入れた。その際の宿泊場所は、古里地区の空き家を利用した。

3) アンケート調査及び来年度以降の話し合い

本事業に参加した人(外部の体験者・地元住民)に対し、アンケート調査を行い、本事業の客観的意見を把握した。また、そのアンケート調査結果をふまえて、来年度以降の活動計画を策定する話し合いの場を設けた。

● 活動の成果

・平成21年度

- ・ 桜島まるごと体験村プロジェクトを実施するにあたり、地域住民の体験を受け入れる体制を整える必要があったため、7月9日から12日までの4日間、体験活動指導者養成講座を実施した。桜島島内からは4名の参加があった。体験指導者の基礎知識やAEDの実習などの救急法を学んだ。
- ・ 9月から月1回程度継続的に農業体験と桜島ならではの体験のイベントを実施している。市内側からの一般参加者3名、地元の参加者2名、受入側5名の計10名で活動を行っている。1月16日・17日が第5回の受入予定で、2月の第6回で終了予定である。
- ・ 地域内では、定期的に市内から若者が集落へ来るので、珍しそうに眺めていたり、話しかけたりしてくる程度である。活動を一緒にするところまでは至っていないが、協力(食事作りなど)を要請すると、快く引き受けてくれる。
- ・ 耕作放棄地を畑に戻す体験は新規性があるため、桜島のまちづくりワークショップ団体などの視察を受けた。



耕作放棄地(除草前)



根の除去作業



畑の様子

● 今後の課題及び展望

・課題・展望

- ・ 当初は、市内側からの一般参加者が予想以上に少なかった。募集方法などの広報をもっと改善すべきである。
- ・ 継続的なイベントを実施し、時間を長く共有することで、地元住民も参加者もみんなが仲良くなった。
- ・ 来年度もこのプロジェクトを継続したいという地元の希望があがっている。しかし、経費の確保をどうするかなどの問題が山積している。現在話し合いを行っている最中である。